

地域別学生委員会の設置

—加住地区における学生と地域の連携活動を事例として—

—Establishment of student committees by districts—As a case study of collaborative activities between students and region in Kasumi District—

創価大学法学部法律学科 和足ゼミ

神田大和、品田ゆりか、森田克望、山本克成

指導教員 和足憲明

創価大学法学部法律学科

日本語アブストラクト：八王子市において、地域と大学・学生との関係構築は「地域づくり」にとって重要課題である。そこで、学生が主体となって「地域別学生委員会」の設置を提案する。

キーワード：学生委員会，域学連携，大学の地域貢献

1. はじめに

加住地区には多くの学生が生活しているが、地域住民と学生との交流は非常に限られているという課題が指摘されている。主な要因として、加住地区内に学生が活動できる組織が存在しないこと、また、地域イベントへの参加機会が少ないか、もしくはイベントの存在自体が学生に周知されていないことが挙げられる。このため、学生が地域社会に直接関わる機会が限られている状況である。

この問題を解決するために、加住地区周辺に特化した学生委員会を発足し、地域広報やイベントの企画・運営に携わる政策を提案する。具体的には、学生委員会が学生向けに加住地区の情報を広報し、地元住民と共にイベントの企画に関わることで、学生が地域社会に積極的に参加できる環境を整える。

2. 現状分析と課題抽出

加住地区における域学連携（地域と大学との関係）の現状と課題について、次の2つの活動から情報収集を行った。

第1に、「まちづくり八王子フィールドワーク」（創価大学）という授業において、加住地区の住民と学生の懇談会（8月1日・創価大学）に参加し、住民の方から地域の現状と課題についてヒアリングした。

第2に、加住地区地域づくり推進会議（9月14日・加住市民センター）に参加し、住民と学生のワークショップにおいて住民の方の意見や大学・学生への要望を伺った。

以上の情報収集を踏まえると、加住地区における域学連携（地域と大学との関係）の現状と課題は、次にようにまとめられる。

(1) 地域と大学の連携ルートが確立されていない。その結果、2つの弊害が生じている。

①地域側が大学・学生に対して告知や相談する場

がないと同時に、大学側から地域に連携を呼びかけることも少ない。その結果、住民と学生が関わる機会がそもそも少ない。

②地域と大学、双方からの明確な連携情報の提供がなかった。学生が地域イベントを知らない又地域イベントに参画することも少ない。

(2) 大学周辺に下宿している学生は、自治会・町会に加入していない為、回覧板による情報共有が困難である。また、地域の情報発信は市民センターなどの掲示板に限られているため、学生が地域のイベント情報等を得る機会が欠如している。もっとも、大学コンソーシアムを通じた情報共有は実施されているが、地域側も大学側も有効に活用できていない。

(3) 加住地区には、①夏祭り、②滝山城跡春の桜まつり、③道の駅における滝山サマーフェスタ、④加住市民センターまつりといった豊富なイベントが開催されている。しかし、イベント企画段階での学生参加がほとんどないため、イベントが単なる恒例行事となり、マンネリ化している。

以上の現状分析から、加住地区における域学連携の課題は、地域と大学の連携ルートが確立されていないこと、とりわけ学生が主体となって積極的に地域活動に関わるためのプラットフォームが存在しないことである。

3. 政策提案

そこで、以上の問題を解決するために、我々学生が主体となって「加住地区学生委員会」の発足を提案する。すなわち、加住地区周辺に特化した学生委員会を発足させ、学生が地域の広報、イベントの企画・運営に携わっていくというものである。

具体的な制度設計は、次のとおりである。

(1)Who

加住地区に在学中の大学生が中心となって地域密着型の学生組織を発足し、加住地区の皆様と共にまちづくりを行う。地域の広報やイベントの企画・運営に携わっていく。

(2)What

・地区に関する広報活動

加住地区で行われるイベントへの学生の積極的な参加を促進するため、大学のポータルサイトにイベント情報を掲載し、キャンパス内にポスターを掲示する。また、地域の魅力を発信するために、地元の飲食店やフォトスポットなどの情報も盛り込み、加住地区の魅力をSNSで広める。これにより、学生が地域に対して興味を持ち、実際に足を運びきっかけを増やす。

・地域農家や企業との新規企画の立案

加住地区の農家や企業と連携し、餅つき大会や農園での農業体験イベント、フォトコンテストなど、学生ならではの新しい視点を活かした企画を実施する。このようなイベントを通じて、地域の方々と協力しながら、互いに発展し合える関係性を築くことを目指す。

・既存イベントへの参加

新しい取り組みだけでなく、加住地区で毎年開催されている「さくらまつり」など、既存のイベントにも積極的に参加することで、地域の方々とより深く交流し、地域社会への理解を深める。学生が地域とともに歩むことで、加住地区全体の活性化に貢献する。

・推進会議への参加

地域の推進会議に参加し、加住地区の多様な世代の方々との対話を重ねる。対面での意見交換を通じ、様々な視点から課題を理解し、解決策を模索することで、地域が抱える問題に多角的にアプローチする。

(3)How

加住市民センター会議室にて、地域住民の方々との協力してイベントの企画や調整に関する話し合いを行う。会議室の利用費用は、午前450円、午後600円、終日利用1650円で、予算に応じて時間帯を選択する。人員については、杏林大学、東京純心大学、創価大学の活動に関心のある学生を募り、参加してもらうことで、人件費の削減が見込める。定例会は月に1~2回の開催を予定しており、イベントの時期や地域住民の方々のスケジュールに応じて柔軟に調整を行う。

(4)得られる効果

[学生視点]

地域密着型であるため、まちづくりを学ぶ学生にとって非常に参考になる。実際の地域に根ざした取り組みを通じて、学生は学業で得た知識を実践的に活用できる

ため、学業やキャリアに活かせる経験(いわゆる「学チカ」)として成長の場となる。

また、この政策を通じて加住地区について深く学ぶ機会が得られるため、地域の歴史や課題、特性などについての理解が深まる。そして、異なる大学から参加する学生たちが協力し合うことで、大学間のつながりを築くことができ、将来の協力体制やネットワーク形成にも繋がる。

[地域視点]

出身の異なる学生との交流を通じて新たな視点を得られると同時に、学生同士のつながりを築くことができる。また、活動を通じて加住地区の魅力を発信することにもつながり、地域の活性化に貢献できる。

(5)政策波及

「加住地区学生委員会」をモデルとして、各地区に特化した学生委員会を全市レベルで発足させていく。その結果、地域と大学・学生の連携が深まり、八王子市が推進している「地域づくり」の運営が、効率的かつ効果的になっていくと考えられる。

<参考文献>

八王子町会自治会連合会(n. d)「加住地区連合HP」
<https://chojiren-hachioji.jp/pages/51/>

内田弘(2019) 「持続可能な地域づくりと若者のアイデンティティ形成・社会的自立」 『社会教育研究』 37, 9-21